令和７年度
埼玉県地域学校協働活動　実践交流会　資料

持続的な地域学校協働活動の推進について

～地域学校協働活動に関わる当事者としてのヒントを考える～

令和８年　１月２０日（火）

文部科学省CSマイスター
明星大学教育学部

朝倉　美由紀

説明の内容

はじめに

学校応援団との関わり

地域との連携についての課題

学校運営協議会制度の正しい理解

CSと地域学校協働活動の一体的推進

参考資料

本日の実践交流会のゴール

お一人お一人がこれからの活動において

何を大切にしたいかを考える。
どのような取組にしていくかのヒントを得る。
自分の関わる地域・学校で、まず何に取組むか。

はじめに

実践交流会アンケートより抜粋

地域との連携についての課題

学校応援団との関わり

学校運営協議会の質の向上

自分がどのように関わればよいか（関われるのか）わからない。

地域との連携についての課題

現行学習指導要領の基本的な考え方

子どもたちに，基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせ，自ら学び，自ら考え，主体的に判断し，行動し，よりよく問題を解決する資質や能力，自らを律しつつ，他人とともに協調し，他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性，たくましく生きるための健康や体力などの［生きる力］をはぐくむこと

学校のみで対応できるものではない。これからの生涯学習社会においては，すべての教育を学校で担い，完結することを目指すのではなく，学校では，家庭や地域社会などとの密接な連携の下に学校でこそ行うべきことに絞って教育を進めることが重要であり，また，学校教育を終えた後も生涯学び続けていくために，その基礎となる資質や能力の育成を重視する必要がある。

地域との連携についての課題

これからの時代を生きるために

未来の社会を創る人を育てる。
少子化による人口減少社会で自分らしさを発揮
周囲の人たちと協働
よりよく生きる意識

学校教育に求められること

知識・技能
学びに向かう力、人間性
思考・判断・表現

社会に求められること

セカンドステージ以降の社会とのつながり
学び続ける、協働し続けることの価値
ウェルビーイング

地域との連携についての課題

学校運営協議会の主なはたらき

〇社会に開かれた教育課程の実現
〇学校課題の解決

一人一人の未来の姿

〇地域の中で、協働し地域を支える。
〇生涯を通じて学び、人と関わり続ける。

地域との連携についての課題

社会に開かれた教育課程

≪導入時の課題例≫
ゲストティーチャーを招へいすることに終始
学校応援団の取組との読み替え
地域学校協働活動推進員の戸惑い

≪例≫
目指す児童生徒像の共有
教育課程へ位置づけができるかの協議
（学校教育の中か外かを考える。）
地域学校協働活動推進員の役割の明確化
コミュニティ・ルームなどの活動拠点
生涯学習等担当課との協働

地域との連携についての課題

地域の思い、内容の検討

↓

教職員と地域との協議

↓

教職員と子供と地域との協議

学校応援団との関わり

学校応援団の方針　　できることをできる人ができるときに

地域学校協働活動の協働対象は、

学校応援団だけではない。
放課後子ども教室の協力（者）グループだけではない。

学校応援団との関わり

（文部科学省行政資料）

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進

地域学校協働活動

地域と学校が連携・協働して行う
学校内外における活動
※社会教育法第5条

※ 地域学校協働本部
地域の人々や団体による「緩やかなネットワーク」
を形成した地域学校協働活動を推進する体制

地域住民等の参画を得て、
・放課後等における学習支援・体験活動（放課後子供教室など）
・授業補助、校内清掃、登下校対応、部活動補助などの**学校における活動**
・地域の防災活動やお祭り等地域の伝統行事への参画など**地域を活性化させる活動**
などを実施

情報共有

地域学校協働活動推進員
地域と学校をつなぐコーディネーターの役割
※社会教育法第９条の７

情報共有

委嘱

コミュニティ・スクール
（学校運営協議会を設置した学校）

校長等
※ 学校運営の責任者として教育活動等を実施する権限と責任は校長が有する

学校運営の基本方針

学校運営・教育活動

説明　承認　説明　意見

学校運営協議会
学校運営や学校運営に必要な支援に関する協議を行う
※地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の5

- 校長が作成する**学校運営の基本方針を承認**
- **学校運営について、**教育委員会又は校長に**意見**
- **教職員の任用に関して、**教育委員会に**意見**

地域学校協働活動推進員

（委員）10～15人程度
・地域住民、保護者
・地域学校協働活動推進員
・その他教育委員会が必要と認める者
（例：近隣幼稚園等・小中学校関係者）
など

学校運営
教職員の任用
意見　任命

説明のため学校応援団追記　朝倉

教育委員会

2

学校応援団との関わり

人と人とのつながりのロールモデル
社会の中で学び続けるロールモデル
社会の中で協働するロールモデル

学校本来の機能を一層
充実させる。

学校運営協議会

自分たちが暮らす地域と
子供の未来を考える。

地域学校協働活動

人と人とのつながりが生まれる。
知見を活かす場所が見つかる。
協働して「こうあったらいい」を実現する。

学校運営協議会制度の正しい理解

実際の学校運営協議会での協議　例1

子どもの実状知っていますか。 何を考えますか。

学校運営協議会の正しい理解

実際の学校運営協議会での協議　例1

今の大人は、お金の価値について
体験して理解している。
でも、今の子供たちは生まれた時か
らこの状況なのだから、本来の貨幣
経済を体験する場がない。
経験し理解する場が必要なのではな
いか。

これからの子供たちが生きる世界は
このような状況だから、
この実状が悪いことではないのでは
算数は算数、現状は現状でも
いいのではないか。

学校運営協議会制度の正しい理解

これからの学校運営協議会での協議　例２

書くことと脳の働きとの関連

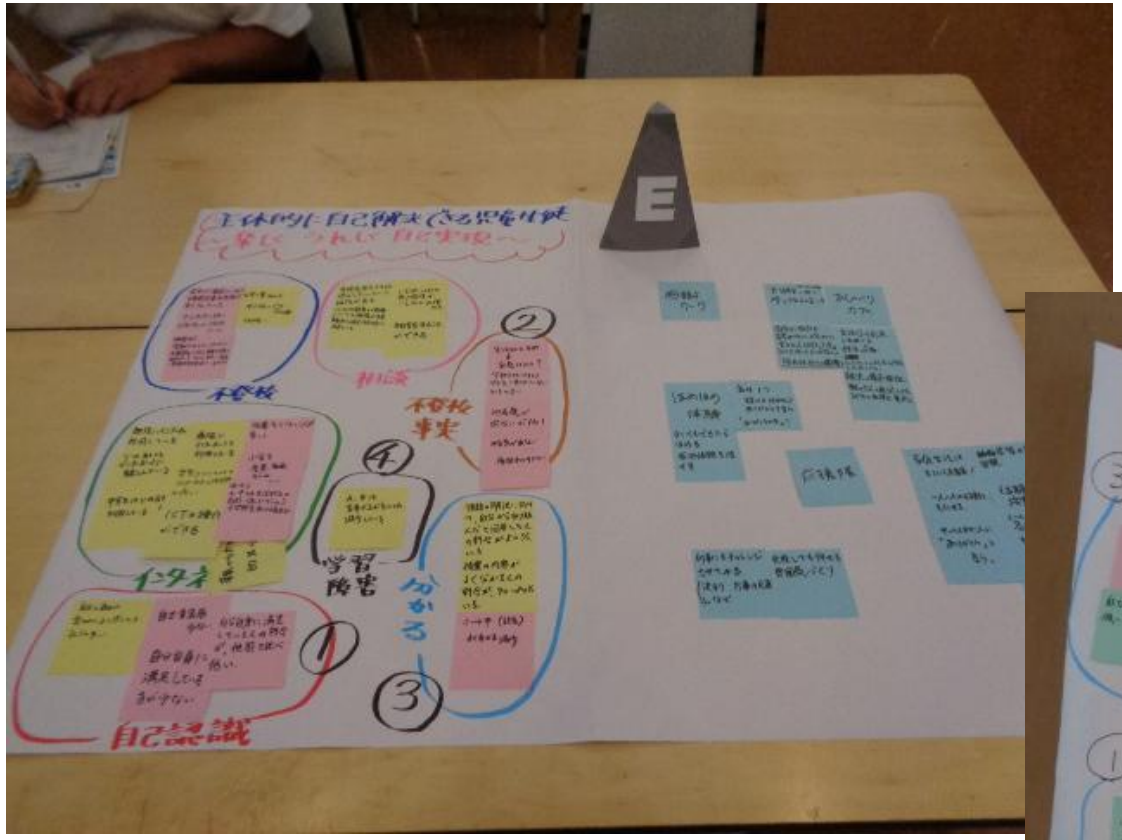
書くことの推奨により読解力の標準以上の児童割合の上昇

書くことはイメージすることにつながる。

スウェーデン　本・紙・鉛筆の学習環境の再構築

アメリカ合衆国　手書きが読解力の向上につながる。
脳の神経回路
意味理解　イメージ化

学校運営協議会制度の正しい理解



目指す児童生徒像について熟議

児童の実状から強みや課題を協議し、
どのような力を育みたいか検討する。

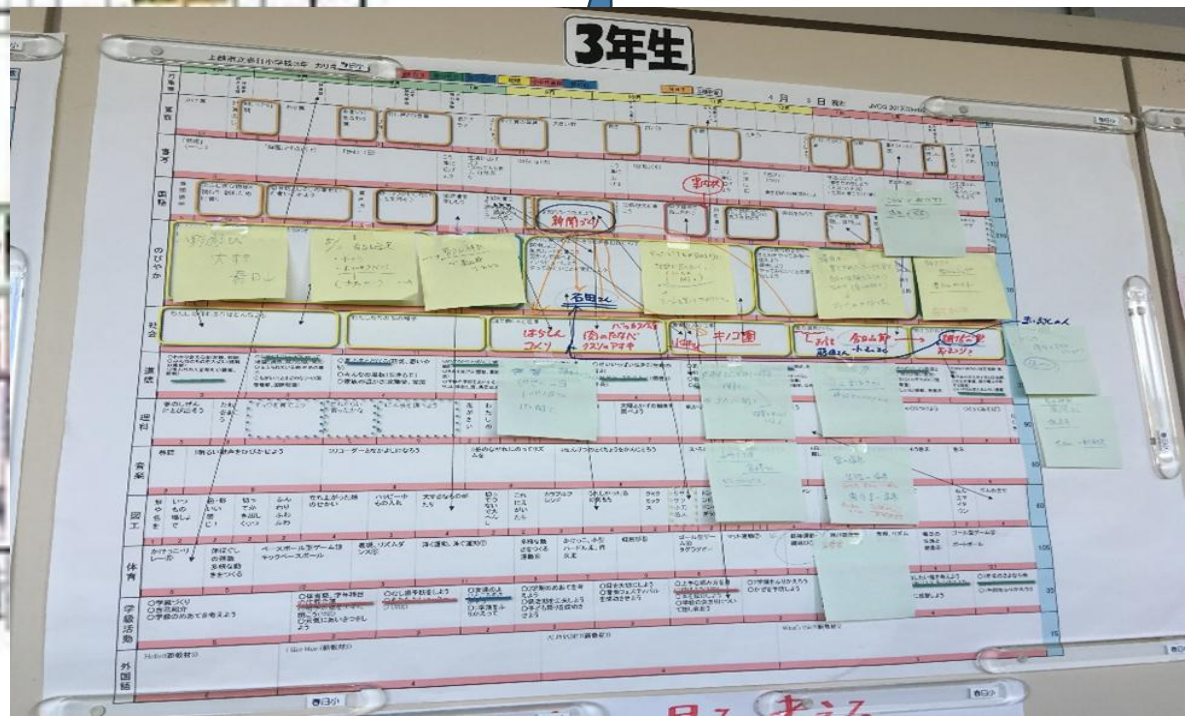
何を、誰が、誰に対して、いつまで

優先順位を決めて具体的な取組を検討する。

学校運営協議会制度の正しい理解

教育課程のどこにおけるかを協議する。

ゲストティーチャーとしての活動だけでなく
教育課程を共に考える



学校運営協議会制度の正しい理解

語り合うこと

立場、経験は様々だからこそ多様な考えが生まれる。
否定するのではなく、
それぞれの立場から出された意見を尊重しつつ
子供のこと、地域のことについて時間をかけて語り合う。

共有すること

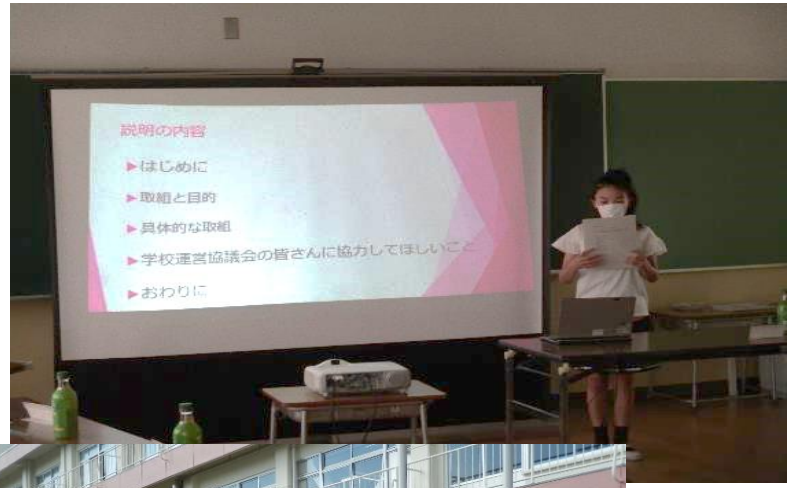
多様な立場であればこそ
共通する児童生徒像が必要となる。
子どもたちのどのように育てるのか、
どんな力を育成したいかを考え、絞り込む。

共に考えること

児童生徒像は、羅針盤。
課題の解決を図るために、活動を考えるときに、
目指す児童生徒像につながることかを考え具体化する。

学校運営協議会制度の正しい理解

育ってきた子どもたちの活躍のステージ



自治会の実行委員

子どもの思いを受け止め共に考える

児童センターでの子どもの居場所づくり

CSで育った子供が
学校運営協議会委員に

学校運営協議会制度の正しい理解

コミュニティ・スクール

持続性
継続性
当事者性

学校運営協議会制度を手立てとして
学校運営マネジメントするサイクルを創る。

評価を組み入れたマネジメントサイクルの確立

地域の方との行事をつくることではない。
必要であれば、新たな取組を創造するが、
これまでの学校経営において
役割を果たした取組（なくす）、
着眼点を変える取組（かえる）、
整理する取組（へらす）　を検証することも重要。

学校運営協議会制度の正しい理解

予測不可能な社会を切り拓き、
創る力が求められている

学校・地域・社会がともに育てる

どのような子供をどのように育てるのか

学校運営協議会制度の意義

学校マネジメント

学校運営の基本的な方針の承認、学校運営への意見、必要な支援の協議

学校運営協議会制度の正しい理解

子供たちが社会に出てからも
学びや学び方を生かせるように

↓

主体的・対話的で深い学び

↓

個別最適な学びと協働的な学び

↓

学校運営協議会制度の意義

子供の学びづくり
教育課程の検討、授業づくり

学校運営協議会の正しい理解

目指す児童生徒像を
実現するための取組になるか。

例　行事ありきではない。

〇教育課程に関わって　どのような力をつけたいのか、どのような学びが必要か。
〇安全マップのバージョンアップ　⇒　地域との交流
〇PTA組織の改編
〇集金の方法
〇あいさつ運動の拡大
〇会議等の精選
〇学校の適正規模を考える統廃合の検討
〇不登校支援の場
〇市民大学講座と学校教育活動の連携
〇地域で活動する諸団体との協働
〇教員の働き方の検討

CSと地域学校協働活動の一体的推進

コミュニティ・スクールの魅力

子供にとっての魅力

学びや体験の充実
地域のよさの実感
身近な大人モデルの存在

地域にとっての魅力

経験や特技を生かす生きがい
学校を核としたつながりができる。
人がつながり地域が活性化

保護者にとっての魅力

地域に対する理解が深まる。
地域の中で子供を育てる安心感
地域の方との人間関係の構築

学校にとっての魅力

「社会に開かれた教育課程」の実現
子供と向き合う時間の確保
生き方を考えるキャリア教育の充実

CSと地域学校協働活動の一体的推進

なぜ、この取組が必要なのでしょうか。

子供たちを、学校を核に地域の大人が育てる。

未来の大人に、現在の大人が背中を見せる。

人は人に触れて人になる。

学校の課題を地域の大人の代表（時として子どもの代表）が話し合って、
よりよい解決策を協議し実行する。

CSと地域学校協働活動の一体的推進

社会総がかりで子供を育てる仕組みづくり

子供が育つ、大人が育つ、地域が育つ

生涯を通じて学び関わることのモデル化